

はい！佐伯教育事務所で H・S・G通信 ございます！！

いつでも22-3011にお電話ください！

佐伯教育事務所通信

NO. 12

発行者 米持 武彦

編集者 有田 千香

平成26年6月20日

国立教育政策研究所指定の佐伯小と鶴岡小が授業公開！！

平成26年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業に係る授業公開が佐伯小と鶴岡小で開催され、それぞれ文部科学省の教科調査官が、授業の指導講評や講義を行い、直接指導していただきました。

6月4日（水）佐伯市立佐伯小学校

○授業者 2年2組 多田裕二教諭 田浦任教諭
国語科「知らせたい！生きものたちのつながりを『わたしのびっくりボックス』」教材「すみれとあり」
めあて：一番知らせたいことがよくわかるようにカードを並べよう



○授業者 5年1組 矢田倫一教諭 山田真由美指導教諭
国語科「フラワープロジェクト新聞を書いて地域の人にみんなの活動を伝えよう」教材「新聞を作ろう」
めあて：3つの新聞社が読書に何を伝えたいのか探ろう



文部科学省 水戸部修治 教科調査官（国語科）



「単元を貫く言語活動を位置付けた国語科」

- 国語科は各教科等の学習の基本となる能力である。
- 国語科における言語活動の充実「4つの原則」
 - ①本単元で付けたい力を見極める。
 - ②付けたい力にぴったりな言語活動を設定する。
 - ③言語活動を単元を貫いて位置付ける。
 - ④子どもの「大好き！」「心に響く！」を重視する。
- 付けたい力は学習指導要領の指導事項一覧で確認。
- 単元を貫く言語活動を位置付けた指導過程のポイント
 - ①導入では、単元を貫く言語活動の見通しをもたせる
 - ②展開では、教科書教材と言語活動とつなげて読ませる。
 - ③発展では、言語活動を自力で遂行できるように指導
- 展開では単に教科書教材の場面ごとの読みにならないようにする。
- 並行読書で選んだ本で言語活動ができるか常に確認。
- 指導と評価の繰り返しで、評価規準の精度も高まる。

6月18日（水）佐伯市立鶴岡小学校

○授業者 2年2組 菅秀一教諭
生活科「一年生に知らせよう！！ 町たんけんで見つけたふしぎと出会った人々」
めあて：互いの発表の良さや感想を出し合って、自分の発表を見直そう



めあての確認 発表ビデオを見て気付きをメモする



気付きを交流する 自分のグループへのアドバイスを整理分類
文部科学省 田村 学 教科調査官（生活科）



「主体的に活動や体験を行い、思いや考えを表現できる子どもの育成」

- 生活科で重要なのは、「体験」と「表現」の相互作用。
- 「表現」が、本当に子どもたち自身がやりたいものになっているかを常に考えておかなければならない。
- 「体験」を振り返らせることは重要だが、子ども自身自らの体験を振り返りたくなる教師の仕掛けが必要。
- 本当に自分から「表現」したいと思ったときには、子どもは集中して聞いたり、没頭したりする。
- 「気付きの質を高める」には（指導要領解説P62）。
 - ①振り返り、表現する機会を設ける。
 - ②伝え合い、交流する場を設ける。
 - ③試行錯誤や繰り返す活動を設定する。
 - ④児童の多様性を生かす。
- 語り手に目が向きがちだが、聞き手をどのように育てるかが重要。教師がよい聞き手のモデルになる。



本指定事業は、毎年11月頃通知され12月末に応募するものです。平成26年度は一校当たり16万円＋旅費が支給されます。国の調査官から直接指導していただき、最近の情報をもとに授業改善できる大変お得な研究指定です。詳しくは市教委や教育事務所にお問い合わせください。（本号担当：宮崎）